

# 家の海から

## 白浜で出会った生きたアメンボ

33

京都大学助教授 久保田 信 (京都大学 瀬戸臨海実験所)

### 海面滑走する 淡水性アメンボ

アメンボは池や水たまり、溪流などの水面をすいすいと滑走するおなじみの昆虫だが、3月29日、白浜町の瀬戸漁港で合計22個体のアメンボが群れて滑走しているのを目撃した。

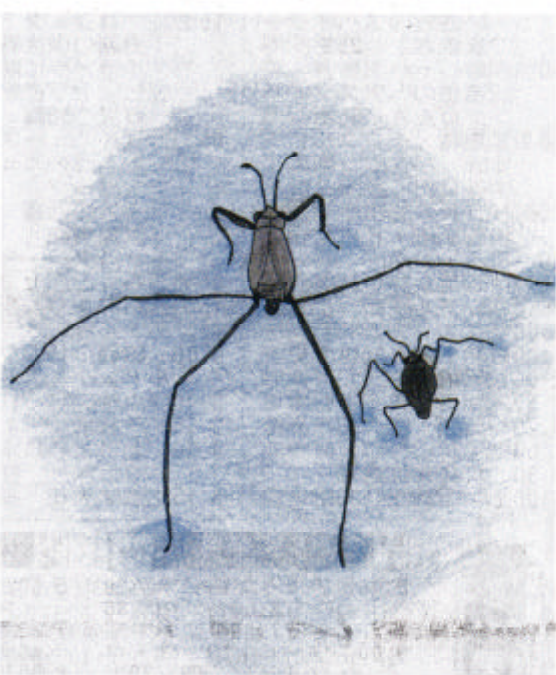
## 体液すすする『バンパイア』

とを水面に投げ込むと簡単に観察することができ。さながら「小さなバンパイア」だ。普段はおぼろげに移動中、複数の小魚が襲ってきたのだ。しているが、餌が少ないと

「ホップ、ステップ、ジャンプ」を繰り返しながら見事にかわして逃げていった。

また、しばらく瀬戸漁港で腰を据えて観察しているが、アメンボはフワリと飛行して大空高く舞い上がっていた。アメンボの飛行に巡り合うことは非常に珍しく、わが人生でも3度目という貴重な遭遇だった。これまでアメンボの飛行に遭遇したのは、上富田町南紀の台と北海道厚岸町愛冠岬だけ。

池沼の汚染が叫ばれている。アメンボにとっても死活問題になっている。洗剤の成分によって水面に浮かぶための足先の密生した毛の中まで水が染み込んでしまったため。水に浮く「水遁(すいとん)の術」が使えなくなると、アメンボは死んでしまう。



ウミアメンボ類の1種(上)とケシウミアメンボ(久保田信助教授作)

瀬戸漁港では過去5年間に8例、淡水性アメンボが泳いでいるのに遭遇している。これまで単独滑走(4回)あるいはペア1対(3回)だけだったのに対し、今回は集団だったのが驚いた。

細長い胴体を水面から浮かせ、くの字形の長い2対目の足先で水をかいて軽快に進む。後足はかじり役のためか中足よりも短い。前足はもっと短く目立たないが、餌捕り用に感覚のそばに添えて獲物を待ち伏せている。

共食いすることもある。過去5年間で、瀬戸漁港への出現時期は春から初夏の3~6月で、1回だけ秋(10月)に出現しているが、厳冬や真夏に姿を見ることがない。

早春に姿を見せたアメンボの成虫は交尾、産卵を終えれば死んでしまう。ふ化した幼虫が成長して、秋になると再び水面に落ちた厚虫類に似た口を突き刺して消化液を注入し、筋肉や内臓を溶かして体液を吸いつくす。その様子はハエなどという生活史に似ている。

アメンボは池や水たまり、溪流などの水面をすいすいと滑走するおなじみの昆虫だが、3月29日、白浜町の瀬戸漁港で合計22個体のアメンボが群れて滑走しているのを目撃した。

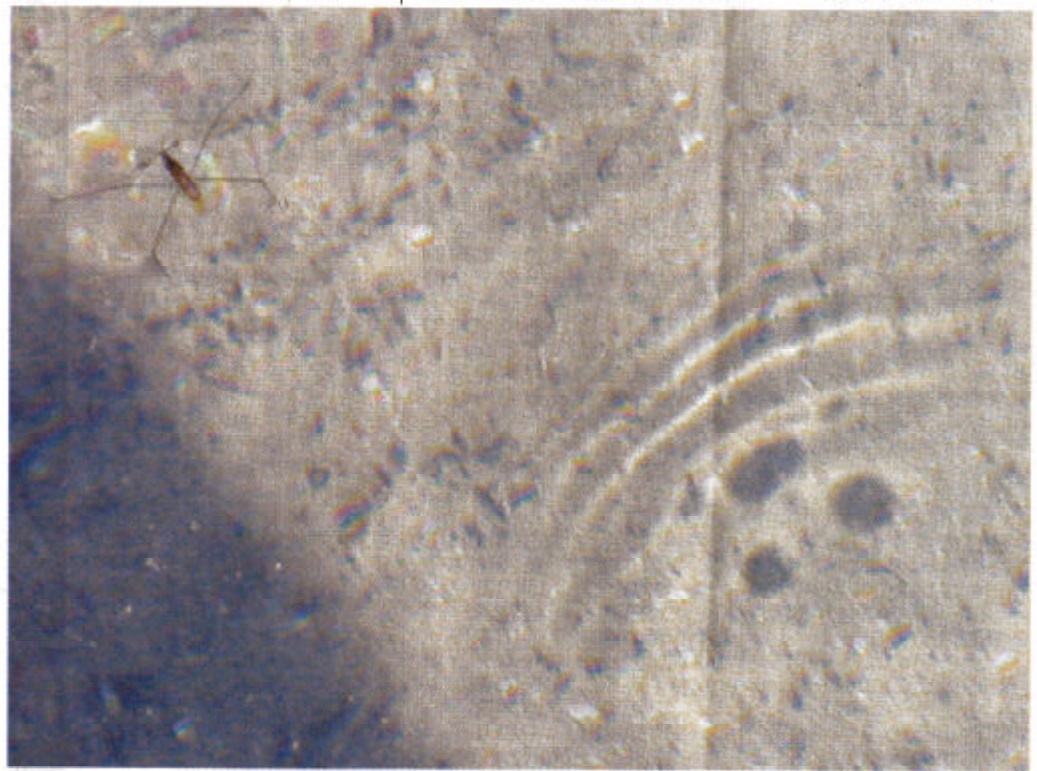
アメンボは池や水たまり、溪流などの水面をすいすいと滑走するおなじみの昆虫だが、3月29日、白浜町の瀬戸漁港で合計22個体のアメンボが群れて滑走しているのを目撃した。

アメンボは池や水たまり、溪流などの水面をすいすいと滑走するおなじみの昆虫だが、3月29日、白浜町の瀬戸漁港で合計22個体のアメンボが群れて滑走しているのを目撃した。

アメンボは池や水たまり、溪流などの水面をすいすいと滑走するおなじみの昆虫だが、3月29日、白浜町の瀬戸漁港で合計22個体のアメンボが群れて滑走しているのを目撃した。



瀬戸漁港の最奥部の海面(水深数メートル以内)を滑走するアメンボ



瀬戸漁港で目撃したアメンボ		
年月日	個体数	
00.4.10	2	
00.6.15	1	
00.6.30	1	
01.3.22	2	
01.3.22	1	
01.4.8	2	
01.10.11	1	
04.3.29	22	

アメンボは池や水たまり、溪流などの水面をすいすいと滑走するおなじみの昆虫だが、3月29日、白浜町の瀬戸漁港で合計22個体のアメンボが群れて滑走しているのを目撃した。